

# かんぽけんぶんろく 環保研聞録

## ~I-RIEP Journal~ 第17号

2019年2月

「岩手県環境保健研究センター」では、県民の皆様の健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- 1 県民の皆様の健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- 2 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- 3 行政の課題に対応した調査研究
- 4 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録~I-RIEP Journal~」では「環保研（かんぽけん）センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

### A型肝炎、E型肝炎患者の報告数が増加しています（保健科学部）

全国及び岩手県において、A型肝炎とE型肝炎患者報告数が増加傾向にあります（表1、図1）。

表1 岩手県におけるA型肝炎、E型肝炎患者報告数の推移

患者報告数	H26	H27	H28	H29	H30	H31
A型肝炎	1	1	1	2	4	3
E型肝炎	5	8	4	4	5	0

注) H31は第7週(2/11~17)現在

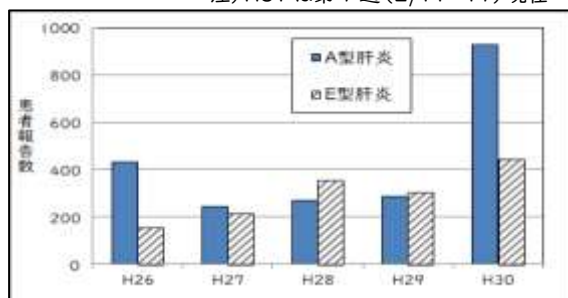


図1 全国におけるA型肝炎、E型肝炎患者報告数の推移

A型肝炎、E型肝炎の症状は、ウイルスに感染した後、2週間から1~2か月の潜伏期間の後に、急な発熱、全身のだるさ、食欲不振、吐気やおう吐がみられ、数日後には黄疸の症状が現れます。妊婦がE型肝炎に感染すると重症化する恐れがあり、死亡する可能性

も高くなるので注意が必要です。なお、両疾患とも感染症法における4類感染症であり、診断した医師は直ちに保健所に届け出ることになっています。

主な感染経路は、ウイルスが付着した食べ物や水からの経口感染です。また、ウイルスが便中に排泄されることから手指を介して口に入れることで感染することもあります。なお、A型肝炎の場合、性的接触による感染事例も多く、平成30年(全国)は、性的接触の割合が経口感染を上回っていました。

A型肝炎は、アサリやカキなどの二枚貝、E型肝炎は、ブタ、イノシシ、シカ等の食肉やレバーの生食による感染事例が多く報告されています。**予防には飲食物の十分な加熱と手洗いを徹底することが重要です。**

症状が回復した後、しばらくはウイルスが便中に排出される可能性がありますので、二次感染の予防に心掛けましょう。

Check!

◎岩手県感染症情報センター

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

## データで見るいわての健康状態-子どもたちの朝食の摂取状況-(保健科学部)

保健科学部では、毎年、県内市町村や学校のご協力をいただき、乳幼児や小学1・4年生、中学1・3年生、高校3年生の生活習慣実態を把握するため、「朝食の摂取状況」などについてアンケート調査を行っています。

収集したデータは、当センターが運用する「いわて健康データウェアハウス※」に集積し、県全体、地域別、性別・年齢別など様々な角度からデータ分析を行い、経年変化を見ることで本県の健康課題を明らかにしています。

朝食の摂取状況ですが、3歳児では「毎日食べる」割合が、調査開始の平成16年度は93.2%で、年々微増傾向にあり、29年度の最新データでは、97.0%でした(図2)。

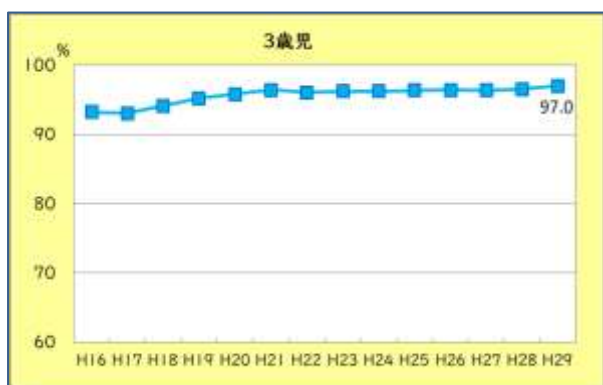


図2 「朝食を毎日食べる子どもの割合」の年次推移(3歳児)

H16-27年度:がん等疾病予防支援システム(市町村対象事業領域)

H28-29年度:乳幼児健診情報システム<岩手県版>

小・中・高校生では、23年度までは「毎日食べる」割合が増加していましたが、その後は、減少傾向を示しています。特に中学3年生と高校3年生の減少傾向が顕著となっており、30年度は、中学3年生89.1%、高校3年生84.7%と、16年度に次ぐ低い割合でした(図3)。

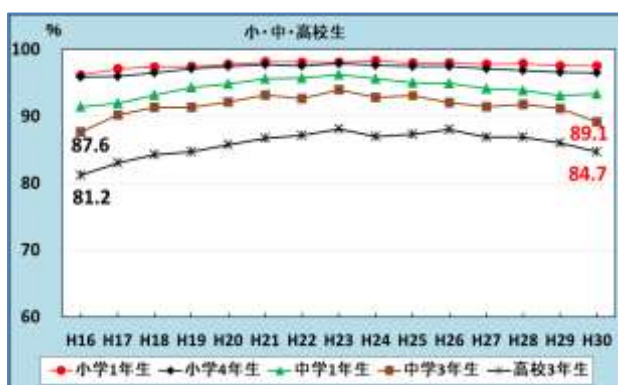


図3 「朝食を毎日食べる子どもの割合」の年次推移(小・中・高校生)

「朝食を毎日食べる子どもの割合の増加」は、県民の健康増進を進めるための計画『健康いわて21プラン(第2次)』において、健康的な生活習慣の定着に向けた取組の目標指標となっています(表2)。

表2 『健康いわて21プラン(第2次)』目標項目の中間実績値(抜粋)

目標項目	区分	基準値(H24)	中間実績値(H28)	最新データ(H30)	目標値(H34)
朝食を毎日食べる子どもの割合の増加(%)	小学4年生	97.7	↓ 96.9	↓ 96.5	100
	中学3年生	92.9	↓ 91.7	↓ 89.1	
	高校3年生	87.0	↓ 86.9	↓ 84.7	

『健康いわて21プラン(第2次)』では、平成34年度までに100%に近づけることを目標としていますが、中間評価を行った28年度、最新データである30年度は、全ての学年で基準値より減少している現状にあります。

次世代のこどもたちに健康な身体や望ましい生活習慣の基礎を身につけてもらうため、県、市町村、学校現場等関係機関等のさらなる連携と取組が求められています。

「いわて健康データウェアハウス」は、今後も引き続きデータの集積と分析を行い、よりわかりやすく充実した情報を発信することで関係機関や県民の健康づくりのための取組を支援します。

### ※いわて健康データウェアハウスとは

岩手県の生活習慣病予防対策の充実強化を支援するため、各種データを一元的に集約・解析し、その結果を県の施策に反映させるとともに、市町村や教育現場、医療保険者等に還元するため構築されたシステム

### 【集積データ】

- ・健診データ及び生活習慣データ:妊婦、乳幼児、児童、生徒、成人(特定健診受診者)
- ・人口動態統計データ
- ・医療費などの健康に係わるデータ

Check!

◎HP:データで見るいわての保健医療情報

[http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/hoken/00694\\_2.html](http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/hoken/00694_2.html)

## 化学物質環境実態調査について (環境科学部)

私たちの身の周りの化学物質は、工業的に生産され、国内で流通しているものだけでも数万種に及ぶといわれています。

これらの化学物質は、私たちの暮らしを便利にしてくれるものとして、なくてはならないものとなっていますが、その生産や使用、廃棄の方法が適切でないと、人の健康や環境に影響を及ぼす恐れがあり、これまで、ダイオキシン類やPCB等が大きな社会問題となってきました。

化学物質のうち、環境中に大量に排出されるものや、分解されにくく、生物の体の中にたまりやすいものについては、残留状況を調べ、有害な影響を及ぼすおそれがないか、科学的な影響評価を行うことが必要です。

環境省では、昭和49年から「化学物質環境実態調査」として、大気や、水質（河川・海）、野生生物の体内にどのくらい化学物質が残留しているかを調べ、結果を公表してきました。また、この調査には全国各地の地方環境調査研究所が参加しています。



図4 水質・底質モニタリング調査（花巻市豊沢川）



図5 生物モニタリング調査（ムラサキガイ／山田町山田湾）

化学物質の環境中の残留状況を調べるためには、それを正確に測る分析法が必要ですが、化学物質により適切な分析条件が異なるため、毎年、数十種類程度の物質について分析方法を開発しながら調査が進められています。

当センターでも、平成13年度より20種の化学物質の分析法を開発しており、その中には、世界的な測定方法となった水質中の有機フッ素化合物の分析法も含まれています。



図6 分析準備



図7 分析法開発に使用するLC-MS/MS

近年では、工場などで使用される化学物質だけでなく、医薬品やシャンプー、石けん、化粧品など、私たちが日常生活で利用する製品由来の成分（Pharmaceutical and Personal Care Products いわゆるPPCPs）が環境中から検出されることが分かってきたため、これらの物質についても、調査が行われるようになってきています。



調査結果は環境省ホームページで公開されています。

◎環境省「化学物質と環境」

<http://www.env.go.jp/chemi/kurohon/>

## 環境保健研究センター業務紹介 —地球科学部—

地球科学部では、大気環境の保全の推進や生物多様性の確保のため自然保護に係る調査・研究を行っています。

### 【大気環境の保全に係る業務】

PM2.5などの環境大気の常時監視のほか、環境放射能調査や新幹線鉄道・航空機騒音等の測定など

### 【生物多様性の確保に係る業務】

希少野生動植物の生育・生息情報の収集・解析や野生動物の保護管理に係る調査・研究など

今回は「大気環境の保全に係る業務」のうち、環境放射能調査の一端として実施している空間放射線のモニタリングをご紹介します。岩手県は県内10地点にモニタリングポストを設置して空間放射線量率( $\mu\text{Gy/h}$ )を検査しており、その測定結果をリアルタイムで県ホームページにて公表しています。



図8 県ホームページ

空間放射線の発生原は地殻等の自然放射線と宇宙線がほとんどです。さらには空気中にも天然の放射性核種が存在します。

下のグラフは当センターで観測された空間放射線量率の平成30年12月の推移を示したものです。(直近3か月のグラフをホームページ上で見ることができます。)

グラフを見ると値が高くなる日があります。これは雨や雪が降った日です。なお、空間放射線量率の1年を通じた傾向として、冬場は低くなる傾向があります。これは雪が厚く積もることによって地面からの放射線がさえぎられるからです。

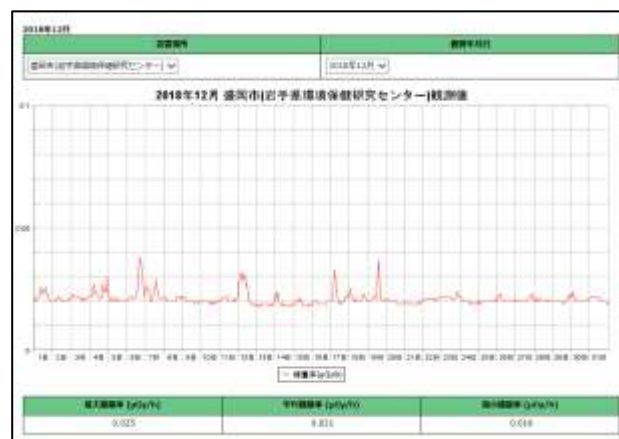


図9 盛岡市の空間放射線量(平成30年12月)

### ★ 環境放射線モニタリングシステム観測値表示画面

・パソコンの方はこちらから↓

<http://www.iwate-taiki.jp/radiation/pc/>

・携帯電話からの方はこちらから↓

<http://www.iwate-taiki.jp/radiation/mobile/>

### 【編集後記】

今冬の県内は例年に比べ雪が少ないようですが、個人的には雪かきの回数が少なくすみそうでホッとしています。

今号は平成最後の発行となります。次号は、新元号に変わる5月の発行を予定しています。さて、新元号はいかに？

### 《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

メール: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

